

促成栽培でのタバココナジラミの発生は 11 月中旬の薬剤散布で長期間抑制できる

促成栽培では、野外からハウス内へのタバココナジラミの侵入が少なくなる 11 月中旬に成幼虫に対して効果の高い薬剤を散布すると、その後の発生を長期間低く抑えることができる。

農業研究センター 生産環境研究所 病害虫研究室 (担当者: 樋口聡志)

研究のねらい

県内の施設野菜類に発生しているタバココナジラミはほとんどがバイオタイプ Q である。バイオタイプ Q に対する有効な薬剤が少ないため、長期栽培する作型では短期栽培と比べて使用できる薬剤が不足しやすい。ハウス内のタバココナジラミは、「成虫が野外からハウス内へ侵入する」、「栽培作物に定着してハウス内で増殖する」の 2 段階で増える。ハウス内への侵入がない時期の防除は、ハウス内に定着したタバココナジラミだけが対象となるため、侵入がある時期に比べて高い効果が期待できる。そこで、促成栽培において野外からハウス内への侵入が終息する時期に薬剤を散布し、その防除効果を明らかにする。

研究の成果

1. タバココナジラミの野外における発生は 11 月中旬以降少なくなるため (図 1), 野外からハウス内への侵入も少なくなる。
2. 促成栽培において、野外からハウス内へのタバココナジラミの侵入が少なくなる 11 月中旬に、成幼虫に対する効果が高いピリダベンフロアブル (サンマイトフロアブル) を散布すると、その後の発生を長期間低く抑えることができる (図 2)。

普及上の留意点

1. 作物や散布回数の制限でピリダベンフロアブルを使用できないときは、ジノテフラン顆粒水溶剤 (スタークル/アルパリン顆粒水溶剤), ニテンピラム水溶剤 (ベストガード水溶剤) を用いる。
2. 野外でタバココナジラミが活動しなくなる気温は、平均気温 10、最高気温 15 または最低気温 5 が目安である。
3. 散布ムラがないように丁寧に薬剤を散布する。

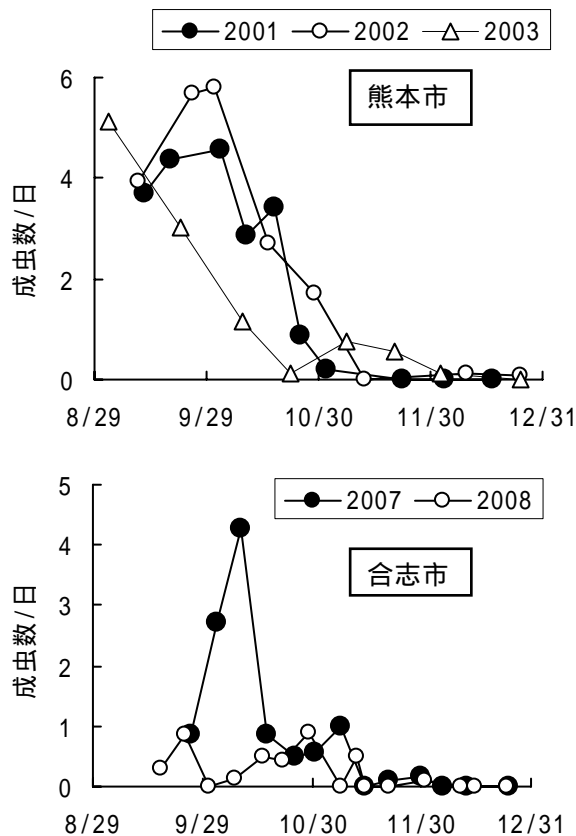


図1 トマトハウス周辺の野外に設置した黄色粘着トラップにおけるタバココナジラミ成虫の誘殺数の推移

調査場所：熊本市，合志市，八代市

成虫の誘殺数の値は、4枚の黄色粘着トラップ(10×10cm)の合計値である。

熊本市および八代市のグラフについては、農業研究成果情報 No.179(平成 16 年 8 月)から改変して作成した。

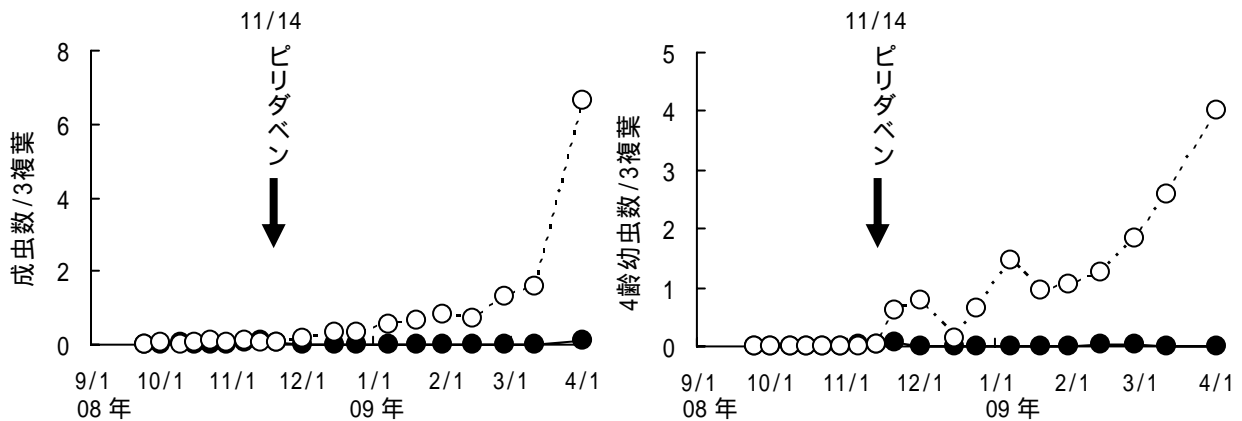


図2 促成栽培トマトでのタバココナジラミバイオタイプQに対する11月中旬散布の防除効果

：散布区 ：無散布区 定植：2008/9/16

ジノテフラン粒剤 1g/株を全株に定植時処理した。

散布薬剤：10/9 エマメクチン安息香酸塩乳剤 2000 倍，11/14 ピリダベンフロアブル 1000 倍

試験ハウスにはカットエースキリナイン(UV カットフィルム)を展張した。

ハウス開口部には、目合い 0.8mm の防虫ネットを展張した。